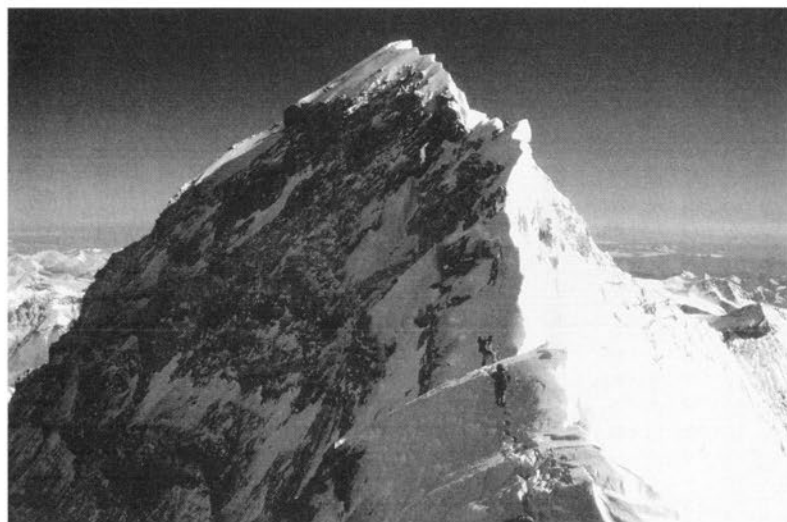


初登頂から50年 最高峰エヴェレストへの思い

松浦 輝夫



南峰上から見る頂上に続く稜線 写真提供 村口徳行



2003 年 (平成 15 年)
5 月号 (No. 696)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-info@jac.or.jp

目次

初登頂から50年 最高峰エヴェレストへの思い	1
海外の山	4
報告	6
科学委員会・講演会「ゴム貼り靴底の剥離問題とメーカーの対応」／総務委員会・韓国早春の山旅パート3／事業・海外委員会・特別講演会「メコン川水源の探査と初下降」	9
支部だより	9
山梨／宮崎	
Climbing & Medicine	11
東西南北	12
詩・ひとすじの光／織内信彦名誉会員と秋田／「地質で語る百名山」／山岳会の「事業」をシフトする／俳句・十文字峠／短歌・大崩山	14
図書受入報告	14
図書紹介	15
「海外トレッキング入門」『北アルプス黎明』『登山誌 南アルプスを含む静岡市の山山』	16
会務報告	17
ルーム日誌	17
INFORMATION	18

▶ 日本山岳会事務局 (含図書室) 取扱時間
月・火・木 10～20時
水・金 13～20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10～18時

毎年のことだが3月から5月にかけては、決まってエヴェレストのことを思い出す。季節の移り変わりによってではなく、「暦」が、33年前の私たちの登山開始時期になるとエヴェレストなのである。あの山での日々は、それだけ私にとって強烈である。ウェスタンクームのアイスフォール、ローツェフェースの急斜面、サウスコルのたたずまい。それらは、一緒に登った仲間たちへの感謝の気持とともに、忘れられるはずがない。

会報『山』の編集者からイギリス隊の初登頂から50年になるので何か書かないかといわれ、改めて何冊かの本を引っ張り出した。ヒラリーの『わがエヴェレスト』や私の参加したJACの『1970年エベレスト登山隊報告書』、植村直己の『エベレストを越えて』などである。(注)

とりわけ注意して読み返したのは南峰から頂上につながる最後の痩せた尾根の部分だった。東南稜から頂上を目指す全ての登山者にとって、肉体的にも精神的にも、そしてもちろん技術的にも、ここが核心である。南峰は8760m。そこに立って初めて、異様な雪庇に縁取られた頂稜の全容が明らかになる。最終的に天候や時間を計り、進退の決断を求められるのも、他ならぬ南峰である。

南峰に初めて立ち、頂上に続くルートを開近に見たのは1953年、イギリス隊のエヴァンスとボデーイロンである。が、疲れと残



【わがエヴェレスト】
イラスト 村上直温

エドモンド・ヒラリー
の写真より

り少ない酸素、尾根の手強さが撤退を決断させる。第二次攻撃隊のヒラリーとテンジンはその3日後の5月29日、午前9時には南峰に達する。「私は強い関心をもって問題の尾根を眺めた。エヴァンスとボーディロンが、あれほど暗い見透しを立てたあの尾根だ。はじめ、一目見ると、すごく印象的で全く恐ろしい眺めだった。しかし眺めていると私の恐怖心はいくらか薄らいできた。可能性はあると思えるのだ」。危険極まりない頂稜に登路を見出そうとするヒラリーから、初登攀者だけが味わう恐怖と戦慄、それを克服しようとする強い意思、こころの昂ぶりを読み取るのである。2人は頂上を目指して前進する。

その17年後の5月11日午前8時、同じ場所に立った私たちは、そこに、イギリス隊の写真で見たとお

■地球上の最高点で

南峰を越えて植村と私は快調に進んだ。酸素補給器の具合もよく、天候の心配もない。アタック日和である。下では大塚博美登攀隊長



頂上直下の筆者

頂上滞在はわずか15分だった。私たちは、このエヴェレスト登山で亡くなった成田潔思隊員の写真や遺品を雪の中に埋め、そのうえに日の丸とネパールの国旗をひろげた。中国隊が登ったノースコルからのルート

をはじめ私たち2人を押し上げた多くの隊員が、力強いサポートで支えてくれている。最終キャンプを出てから3時間、9時過ぎに頂上に立った。植村と私は互いにしつかりと抱き合い、息の詰まるほど背中をたたきあつた。それは17年前、テンジンとヒラリーが交わしたのと同じ喜びの表現だった。本当にうれしい時、だれもが同じようなことをするものだ。

山頂でのヒラリーは、酸素補給器の助けも借りず世界最高峰に挑んだ開拓者たちの偉業を想起する。そして、この山で命を絶つたマロリーとアーヴィンの痕跡がないかと見回す。一方、信心深いテンジンはビスケットやチョコレートを供物として供える。2人にとつて

を自分なりにチェックもしてみた。植村は「(自分を)ラストランナーとして送ってくれたみんなへの感謝と登頂の感激を一生忘れないだろう」と書き残している。頂上での1時間はあつという間にすぎた。

私たちにまたとないチャンスを与えてくれた晴天は翌日も続き、平林克敏隊員とチョタレ(サーダ)が第二次登頂に向かう。平林隊員も南峰からの眺めを「エベレストへの最後の稜線は実に美しい」と書き、強まった風のなか喜びの山頂に立った。

■「ヒマラヤ」

イギリス隊がエヴェレスト登頂を果たしたのは私が大学1年の時である。エリザベス女王の戴冠式と同時に伝えられた登頂のニュースに私も興奮した。「ヒマラヤ・オリンピック」の時代が始まっていた。当時はイギリスやスイス、フランス、ドイツ、イタリアなどヨーロッパ勢が中心だが、やがてアメリカ、インドなども競争に加わってくる。登頂には国の威信もかかっていた。

世界の登山界の動きのなかでJ



アイスフォールの荷上げ

ACはターゲットを8000¹峰に絞る。マナスル登山は1953年から56年にかけて行われ、登頂に成功する。

そんななか私たちの山岳部の周辺には、厳しい訓練を経て、より高く、より困難を求める気風が充ちていた。多くの若者がヒマラヤに行こうという夢を持ち続けた。

大学を出て8年後の1965年、早稲田大学登山隊は未踏のローツェ・シャル(8383¹)を目指した。隊員の転落事故があり、その後体勢を立て直して登攀を再開したのだが、あとわずかというところで引き返した。われわれの失敗のあとオーストリア隊が成功したことでローツェ・シャルは視界から消えた。そして私には深

い悔いが残った。あの時あの山で、自分はぎりぎりまでベストを尽くしたか、初めて体験する高さとの闘いに負けて逃げ出しただけでは

ないかという思いである。マナスルやヒマルチュリのとJACには課題として世界の最高峰エヴェレストが残っていた。日本人はだれも登っていないからどのルートから登ってもおかしくなかったが、ピークハントの時代は去り世界の趨勢はバリエーションルート

の時代に入っていた。当然JACも、より困難な「南壁」を主目標とし、併せてクラシックルートの東南稜も登る計画を発表して隊員を募集した。私は募集に応じ、選ばれた。ローツェ・シャルの悔いがエヴェレストのバネ

になった。出発までの日々、厳しいトレーニングを自分に課した。35歳、山登りを大きな生き甲斐と感じ、また、そう信じて登ったエヴェレストだっ

た(残念ながら小西政継をリーダーとする南壁からの登頂はならなかった)。

その後、JACだけでなく大学や地域、社会人のグループが、ヒマラヤを舞台に意欲的で多様な活躍を展開しているが、1980年、中国側からのJACチョモランマ登山隊あたりを境に、高峰登山の流れは、総力戦的チーム登山から別の方向に向かっていた観がある。

私自身は1981年、早稲田のK2西壁隊で隊長を務めたあと本格的な登山から遠ざかった。主な理由は身体がついていけなくなっただけである。屋久島に移り住んで10年、陶芸とランづくりに励み、2年前、大阪に帰ってきて昔の仲間と会う機会が増えてきたこの頃である。

■いま時代は大きく変わったが

離れているうちに人も時代も大きく変わった。ヒマラヤの高峰登山にいま、明らかに、別の時代が訪れている。登る人もスタイルも20、30年前では想像もつかなかった変わりようだ。技術が向上し、装備、器材がよくなり、スピード

が格段に上がった。無酸素、単独は珍しくない(もしもの時、ひとりは大変だと思っけど)。グループで出かけても、皆が同じ目標を持ったり足並みを揃えているとは限らない(なにしろ個人が中心でなければすまない世の中だ)。

営業的の公募登山がはやっていて、テントと酸素とステップが、お金と引き替えに提供される(旅行社がやっている海外観光ツアーとあまり変わらない便利さ)。5月の登頂日和、エヴェレストではヒラリー・ステップに順番待ちの列ができるという(マッターホルンの難所でもよくあることだから仕方ないか)。しかしそれらの、私としては好きになれない登山に敢えて異議を唱えても仕方あるまい。

せいぜい言えるのは、お互い助け合い、補い合い、信頼し、責任を分かち合った昔ふうのチーム登山も、面白くて充実感があって、人生が豊かになり、思い出せば楽しいよということくらいか。

(注)『わがエヴェレスト』松方三郎 島田翼訳、1956年、朝日新聞社刊

『エヴェレストを越えて』1982年、文藝春秋刊

海外の山

8848メートル
1953年／2003年

江本 嘉伸



50年前を語るヒラリー卿 3月19日江本撮影

初登頂から半世紀、エヴェレストは歴史の視点から現在をとらえることができる貴重な「実験場」だ。通常、人は一世紀は生きられないが、半世紀なら自分の目で時代の大転換の目撃者になれる。

それにしても、この春は大変な風景だ。ネパール側も、チベット側もそれぞれ数百人のにわか住民であふれ、エヴェレスト山麓は、村というより町になった感じである。無論、「初登頂50周年」をうたった隊が多く、社会的話題にはこと欠かない。

アメリカの「チーム・エヴェレスト」の隻腕のゲリー・ガレーは「50年後の進展を示す」目的から、身体障害者たちの車椅子でのベースキャンプまでのトレッキングをリードした後、自らは登頂をめざす。ロシアからはサンクトペテルブルグ市創立300周年を記念する登山隊が繰り出し、同じロシアでもモスクワの「アド

ベンチャー登山隊」の12人は、チームでセブン・サミッツを成し遂げようとエヴェレストにやってきた。今年スタートさせたばかりの計画ですでに1月にエルブルース、2月にキリマンジャロ、と登ってきた。

アメリカの「スキー登山隊」は、北側から無酸素で登頂し、スキー滑降を試みようとしている。やはりアメリカのシーン・バーチは、二人のシェルパの協力で無酸素で登頂をねらい、できれば頂上から世界初のジャンプ・ロープを試みようとしている。ロープ一本でジャンプするとして、どちら側に落ち、どのように登りかえすのだろうか。

中国隊も大きな課題に挑戦している。「エヴェレスト登頂50周年を記念して第3の極点に立とう」と、セブン・サミッツの達成者である、ワゴン・ヨンフェン（王勇峰）をリーダーに、中国国民に近代スポーツとし

ての登山をアピールするために、12人から成る登山隊を組織。今回はとくに広く国民に知らせるため、登山行動を逐一現地から映像で伝える計画で、そのために登山要員以外の人員は、かなりの数に上る（3月末、19の軍用テントがベースキャンプに張られた）。

この隊は、著名な外国登山家をゲストとして北京に招き、中央テレビを通して、エヴェレストの歴史などについて話してもらう予定だが、懸念されるのが深刻化した新型肺炎SARSの影響。実際、5月10日には、チベットの町ティンリから、警察官などマスク姿の9人のチームがベースキャンプに派遣された。ネパールの山に出かけた旅行者の1人がSARSで死亡、との情報があり、いち早く北側の様子を見に急行したらしい。

そして、ベテランとなれば、70歳の三浦雄一郎、三浦の友人で、世界の初セブン・サミッターとして知られるアメリカの富豪、73歳のディック・パス（邦訳「7つの最高峰」の著者）がいる。苦勞しながら高度順化をこなしてきたが、三浦隊の情報では、パスはぎつくり腰で登頂を断念したようだ。

カナダの消防夫登山隊、イタリア隊のスピード登頂など、話題としてはほんとうに多彩だが、問題は、天候だ。4月の間は、各隊とも高所順化と前進キャンプの設営を順調にこなしたようだが、5月はじめ、エヴェレスト周辺は猛烈な風に見舞われ、各隊が建設した上部キャンプは、だいぶ破損してしまった、と伝えられる。

体勢を立てなおして、数少ない好天を待ち、一気に頂上へ、ということになるのだろうか、さて、これらの隊が一齐に動くとき、どんな数珠つなぎ状態になるのか、想像すると恐ろしい。槍ヶ岳の穂先への登りのように、登り、下りを分けるわけにはいかないだろうから、ラッシュ時の混雑は避けようもなく、おまけに早い午後、できれば正午前までに頂上に達することがエヴェレストでは、鉄則なのである。

そういうことを、東京で言えるのも、エヴェレストを中心にヒマラヤの情報を発信し続けているウェブサイト「Everest News.com」のおかげなのだが、初登頂50年を迎えたエヴェレストで特筆したいのは、多くの隊がその「情報」を実に丁寧に地上に送り続けていることだ。



車イスでやってきた米青年に頼まれカメラにおさまる三浦親子
雄一郎(左)と豪太(右) 三浦隊提供

たとえば、三浦雄一郎隊だ。ほとんど同時進行のかたちで、登山の進行ぶりをメールで配信している。日記の文章とあわせて、現場の写真、たとえば崩壊したアイスフォールなど、が高速衛星回線を介して豊富に届けられ、実に臨場感に溢れる発信ぶりなのだ。現地にいる雄大(本職はシステムエンジニア)、豪太(今回父・雄一郎と共に登頂予定)兄弟と東京で受けデスク役をやっている長女の恵美里(バスの「7つの最高峰」翻訳者)の呼吸がいろいろ。99歳でモンブランの氷河を滑った父、敬三を中心にしたスキー大滑降の時もそうであったが、まさに家族で登山を実践し、現代的情報発信をやっている印象である。

登山者、シエルパほか南北あわせ

て「住民」は千人を越えるであろう登頂半世紀のエヴェレスト。かつては、毎年数人しか受け入れなかったこの女神の頂きは、近年では、2000年146人、2001年182人、2002年159人、と三ヶ塔登頂を許すようになり、2002年末までの延べ登頂者数は1655人に達している。

この大変転の事態を先人はどう見るか。50年前の5月29日にテンジン・ノルゲイとともに初登頂者となったエドモンド・ヒラリー卿をオーランドの自宅に訪ね、聞いた。先月号の会報でふれたが、国際山岳年日本委員会が4月8日、国連大学とともに実行した「フォーラム・山やまの未来―エドモンド・ヒラリー卿と共に国際山岳年を締めくくる―」のため、事前にオーランドに飛び、打ち合わせのかたわら話を伺ったのである。

海の見える丘の中腹の家で、83歳のエヴェレスト初登頂者は、ジュン夫人とネコ3匹と静かに暮らしていた。ただし、初登頂当日の5月29日にはカトマンズで、6月3日にはロンドンでそれぞれ記念のセレモニーと夕食会があり、その後にはアメリカ各地へと、長距離強行軍の旅が

控えている、と笑った。

ヒラリー卿がはじめてヒマラヤに行ったのは、1951年、インドのガルワール・ヒマラヤだった。当時、エヴェレストの南側にルートを見出そうとしていたエリック・シプトンの踏査行に名乗りあげ、共に行動したのである。

「どこをどう登るか、シプトンと私はクーンプ氷河の末端まで行き、プモリの尾根に攀じ登り、ウエスタン・クウムの上部、ローツェ・フェースからサウス・コルまではじめて見た。そして、難しいが、登頂できるルートを確認した」

静かなウエスタン・クウム。そして、急峻なローツェ・フェースを切り開いてつくったサウス・コルのキャンプ。一次隊のトム・ボーディロンとチャールズ・エヴァンスが、南峰(8760)まで達し、疲労困憊してサウス・コルまで帰ってきた時、ヒラリーとテンジンの役割が決まった。

「8500の最終キャンプまでジョージ・ロウなど3人にサポートしてもらったが、2本の酸素ボンベなどを背負い、一次隊のデポ地点で、さらにテントなどを担いだので30近い重さになった。南峰から先が、

クライマックスでした。雪がやわらかく、雪崩が起きてカンシユン・フェースまで落とされるのでは、と心配になった」

我々の隊は、後のどの隊にもない、大きな課題を抱えていた、とヒラリーは言う。

「誰も行ったことがない場所を目指すという、心理的障壁です。ヒラリー・ステップはいったん刻まれてしまえば、登れるとわかり、多くの隊が続く。でも、自分たちの前にそこを通った人は誰もいないとなれば、まったく別です」

エヴェレストと山麓の人々を愛し、いまでもその地の環境保護運動に力を注ぐヒラリー卿は、商業公募登山には、なお懐疑的だ。

「コマーシャル・エクスペディションに参加する人の中にはさほど技術を持っていない人もいるだろう。彼らは、たとえば6500ドルを払って数千のロープと、ヒラリー・ステップには3本の固定ロープを張ってもらう。そして、ガイドの足跡をたどって登るだけなんだ」
私たちは幸せだった。登山者が数珠つなぎになったエヴェレストなど、見たくない、と老登山家は言いきった。

報告

REPORT
5月

科学委員会

講演会「ゴム貼り靴底の剥離
問題とメーカーの対応」

3月20日、表記の講演会が開催された。

登山中にトレッキングブーツのゴム底が突然剥がれる事故に出合うことが多い。メーカーや販売者は、「経年劣化による破損」であるから使用後の手入れや保管に留意し、使用前には入念に靴底を点検して異状を認めたら張替えや買い替えをするように、と呼び掛けているが、登山者側からすれば、そのような劣化が起こらない素材を使えないのか？ 破損防止に向けてメーカーはどのような改善策を講じているのか？ と問いたいところである。そのような疑問に応えるお話を登山靴メーカーのシ

リオ社の花香社長から伺った。

靴のミッドソールには軽くて耐摩耗性があり、クッション性にも優れるポリウレタン（以下PUと略記）が使われているが、PUにはポリエステル系とポリエーテル系の2種があり、後者は価格がやや高いこともあるが、主に接着性が悪いために使われず、使われているのはほとんどが前者である。ところが、前者は後者よりも吸水性が高く、温暖多湿の場所に保管されるとそのエステル結合の加水分解が進んで分子量が小さくなり、脆くなる。カビの繁殖による劣化も無視できない。

イタリアでキノコ菌類が多い林や湿地帯を歩き回るハンターに、同様な破損が報告されているが、一般に空気が乾燥しており、乾燥室は加熱ではなく除湿されている

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

今年もさよばいりで会いましょう

欧州では、日本におけるような破損問題は起きていないという。従って日本向け輸出の割合が低い欧州の靴メーカーに、ポリエーテル系のPUを使った商品の製造を申し入れても理解され難いのが現状である。

シリオ社は製品の大部分を日本市場に供給しているので、市場の要求に合った根本的改良を目指して加水分解され難いエーテル結合からなるポリエーテル系のPUを使用することとし、このPUの接着性の悪さをカバーすると同時に水との接触を避けるためにPUをゴムで包み込み、靴底と一体にする方式を採用したという。

剥離問題を起こす可能性がある靴は既に国内で約20万足出回っているのに、これまでに修理を申し出られたのは僅か約3万足でしかないから、今後増加が予想される破損事故対策として、山小屋に数種のスペアの靴を備えることなども検討されているらしい。

経時劣化し難い靴が出回るまでにはまだしばらく時間がかかると

思われるから、差し当たって登山者が突然破損事故を避けるには、閉め切ったストーブなどで加熱しているだけの水蒸気が立ち込めた部屋は、乾燥室というよりはむしろ加水分解室であると考えて敬遠し、まして、輻射熱が強いストーブの近くに濡れた靴をそのまま我先にと置くようなことをせず、保管する際には黴が生えないような風通しが良く湿度も低い場所を選ぶなどの心掛けが必要であろう。

メーカーにとつての焦眉の課題はポリエーテル系PUの接着技術の開発競争のように思われる。

(織方郁映)

総務委員会

韓国早春の山旅パート3

今回で3度目を迎えた「韓国早春の山旅」も、もとをたたせば総務の西村氏が1971年1月厳冬の雪岳山に登山した時に2人の韓国人登山者と山中で遭遇したことに起因する。彼らが韓国山岳会のメンバーであることも幸いし、以



みごとに眺望の水落山頂上にて

後親交が今日まで続いている。

第1回は吹雪の道峰山、第2回は黄砂舞う北漢山、そして第3回はその折りに垣間見た岩峰の連なり、水落山と決まった。

水落山は俗に水落八景を山中有する景勝の地でもある。3月15日、石林寺登山口、10時30分韓国側メンバーとのミーティングの後、行動を開始する。前方にそびえる山脈の連なりは見るからに手強そう。韓国の山を標高で判断しては大きな誤りを犯すことになる。花崗岩の岩峰、岩稜の通過は時には、日本の3000級を越える縦

走路よりはるかに厳しい。

石林寺の山門をくぐりぬけ、徐に山中の雰囲気漂い出す頃、石林寺に着く。沢を遡るとみごとに氷結したナメ滝が出現し不安がよぎる。ナメ床を歩み15分ほどで沢を渡り雑木の生い茂る山の斜面に取り付く。道はしっかりと整備されている。当初登路に予定していたホームトン岩に至るコースが閉鎖されていた。韓国の山で目にするところの「停年休息年制」に基づくコースの閉鎖である。自然保護の行き届いた韓国の一面を見る思いがした。

道標にしたがい水落山への直登コースを登ることになった。主稜線につき上げる支尾根に取り付く。きつい傾斜にあつという間に高度は稼げるが、北面に回り込むと足元は残雪が凍りついており、軽アイゼンを取り付けるべきか迷う。下山時に予定している尾根の対向斜面はみごとにスラブの一枚岩で降雪をまとい一気に谷まで数百級落ちていく。今登っている尾根も危険な箇所には鉄柵とフィックスザイルが設けられており、登山者に安全を提供している。崩落で鉄柱が宙に浮いている箇所もあるの

で要注意だ。

12時30分、主稜線に立つと目の前に水落山の山頂の標石があり、ここが山頂であることに気づいた。この山域最高の標高がもたらす眺望は、みごとである。視界を遮る樹木もなく、俯瞰する景色に時を忘れそう。韓国山岳会の旗を日韓の岳人が持つての山頂での記念写真撮影も例年通りとり行う。山頂の空高く飛翔する鷺の姿に少なからず驚きもした。

山頂から620級峰に向かう縦走路では、凍りついた雪と岩稜の通過にやさかてこずる。他パーティーの一人が滑落したりして時間をくった。主稜から南面に張り出す尾根の付け根部分、クヌギ、マツの疎林のほど良く開けた場所では昼食をとる。韓国チーム持参の食材に舌鼓を打ちながら日韓交流のひとつきを過ごす。空腹を満たした後はカルツタク峠への急な下りが始まる。途中、アンリムと称される水場でのどを潤した。いくたびか流れを渡り返しながら下る。ほどなく水落山登山口の立派な標石の前に立つ。この場所には露天商が軒を連ね緑日のような雰囲気醸し出していた。振り

返り見れば水落山が午後の陽射しの中で、どっしりと横たわっていた。
(神田 道雄)

事業・海外委員会共催

特別講演会「メコン川水源の探査と初下降」

このたび策定された「長期改善計画」の事業のひとつとして講演会の定期開催が盛り込まれたが、平成15年度第1回講演会が4月15日(火)、千駄ヶ谷の東京体育館で開催されました。

事業委員会と海外委員会が共催。

山の本の古書店

山と探検に関する本の目録販売。

目録ご希望の方お申し込み下さい。



晴山書房

東京都中野区上鷺宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

東京農業大学探検部隊によるメコン川の水源地調査と初下降の記録を3度にわたり探検隊長をつとめた北村昌之氏が、貴重なスライドを多数使いながら講演された。同地域に詳しい海外委員会中村保理事が解説を担当し、同隊がメコン川源頭の第一発見者であること、この記録を当会の『Japanese Alpine News』で海外へ発信し反響を呼んでいることなど、興味深い報告だった。

青蔵高原東部の氷河から南シナ海に注ぐ「母なる大河」と呼ばれるメコン川の源流域は二十世紀末まで残された未踏査地域だった。

1994年の同隊は中国科学院と合同で、川の長さ、流域面積、流量の3つを基準にして探索を続け、ついに9月12日、賽錯山(5632m)の東面の氷河から流れ出る源頭を発見した。川の流れが合流する地点で、本流を判断するために隊員がそれぞれ水の流量を調査している写真が、丹念な探索の繰り返しだったことを物語っているようだった。この翌日、源頭最高峰である賽錯山の登頂に成功している。

1999年夏、ラフティングボ

創立100周年記念募金のお願い

当会は、創立100周年を再来年に控え、各位のご理解を得て、諸準備を着実に進めております。

100年に一度の記念事業を実施するには、当然ながら多額の資金を必要といたします。毎年、長期計画準備積立金の一部に必要な資金を積み立ててきておりますが、未だ半分にも達していないのが現状でございます。

つきましては、すでに本誌でお知らせのとおり、3年分割にして、記念事業のための会員募金を行うこととさせていただきます。

会員各位におかれましては、どうかこの趣旨をご理解賜り、募金にご協力のほどお願い申し上げます。

日本山岳会会長 大塚博美

記

1. 会員募金目標 4,000万円
2. 募金金額

平成15年度	3,000円
16年度	3,000円
17年度	3,000円
3. 対象記念事業(詳細・会報『山』平成14年3月号参照)
 - 記念海外登山 ●記念海外トレッキング ●国内分水嶺登山
 - 『百年史』の刊行 ●『新日本山岳誌』の出版 ●記念式典・晩餐会の開催 ●ブロック別記念式典の開催 ●その他
4. 振込み方法

郵便振替(既送の専用振込用紙をお使いください)
5. 本15年度分締め切り

平成16年12月31日

創立100周年記念事業準備委員会
委員長 大塚博美

ートとインフレーションから東京都まで全人未踏の区間、距離560km、高度差にして1500mを航行すること成功。2002年秋にはその下流を航行し白濁汎まで達して

いる。

前人未踏の航行は、80kmのボートを陸に揚げて高巻きしたり、下流に3つの大きな滝があるという住民の言い伝えに戦々恐々としたり。淡々と語る北村さんの話を聞

きながらも、ボートを漕いで水と格闘する隊員たちの迫力のあるスライドに参加者はみんな圧倒されていた。参加者会員36名、一般29名、合計65名。

(西村 政晃)

山梨支部

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

南アルプスの登山口 芦安に山岳館オープン

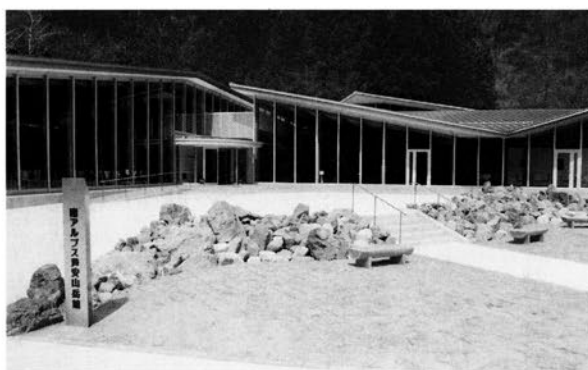
南アルプス北部登山の玄関先である山梨・芦安に「南アルプス芦安山岳館」が4月1日、オープンした。山岳文化と貴重な自然のミュージアムをテーマに、地元に着した活動をしていく。

山岳館は県産材を使った平屋建てで、総床面積約1400平方メートル。常設展示場、企画展も開くことができるラウンジ、山岳図書コーナー、語り部コーナー、南アルプスのライブ映像を流すスクリーンなどを備えている。

常設展示は「山に学ぶ」「山に

登る」「山に生きる」「山の喜び」の4分野に分けている。このうち「山に登る」は、近代登山を支えた「芦安案内人」にスポットを当てている。案内人として登録されていた中から42人を紹介し、地元と結びついた登山史を描き出している。

山岳図書は約6000冊を収蔵。地域の植物学者や山岳団体の寄贈図書も多い。語り部コーナーは、地元住民との交流の場となる。ライブ映像は、北岳山荘と夜叉神峠にカメラを設置、大きなスクリーンに映し出す。北岳山荘などの気



南アルプス芦安山岳館全景

象データも送られてくる。

山岳館開設にあたっては、山梨支部の近藤信行、山寺仁太郎、高室陽二郎、内藤順三会員らが準備委員などとして協力した。なお芦安村は4月1日から合併によって南アルプス市となった。

(住所・山梨県南アルプス市芦安
芦倉1570 電話・055・288・2125 HPアドレス・
<http://www.minamialps.net.jp>)

●木暮碑前祭統合のご案内

例年、5月下旬に瑞牆山麓の金山平で開いていた木暮碑前祭は、今年から発展的に解消し、10月下旬の木暮祭に統合することになりました。

碑前祭は1956(昭和31)年6月、木暮理太郎翁の13回忌に際し、親しい人たちが金山平に集まったのがきっかけで始まりました。以後、碑前祭として継続し、途中から山梨支部も主催に加わり、昨年で40回を数えました。一方、1960(昭和35)年10月からは地元須玉町の増富観光協会、山梨支部、山梨県山岳連盟主催の木暮祭が毎年10月に行われています。

山梨支部は、ふたつの木暮祭のあり方などを検討してきましたが、碑前祭が40回の節目を越えたこともあり、今年から秋の木暮祭に一本化することにしました。関係者の皆様にご報告します。また、碑前祭運営に長年尽力くださいました皆さまに感謝いたします。

(山梨支部)

宮崎支部

第19回定例総会

4月5日、宮崎市瀬頭「ひまわり荘」大会議室において開催された第19回宮崎支部総会は、会員115人(うち委任状48人)の出席のもとに、熱気あふれる総会となった。

大谷支部長は次のように挨拶した。「本年4月入会予定の17人を含め127人という大所帯となった。元気印の顔に同慶の至りだ。14年度の支部活動で大きな成果を収めたことは、会員一人ひとりがリーダーシップとメンバーシップの



大所帯になり、熱気あふれる宮崎支部総会

自然保護活動などに積極的な努力と愛情が原動力になったと思う。

論語に『知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ』とある。このような先人のことは胸に、必然的に起こる世界の水不足による『水戦争』にも思いを馳せ、常に『山と水、水と山』を視野に入れながら謙虚な山行を重ね、また、2005年の日本山岳会100周年と宮崎支部20周年記念事業などに取り組みたい」と、会員の積極的な支援と参加を訴えた。

総会では14年度の事業報告と収支決算報告に続き、2005年の

日本山岳会100周年および、宮崎支部20周年記念事業計画（記念誌の発行、海外登山、国内登山、写真等の展示会の開催）を決定した。また、15年度の事業計画（定例登山研究会、定例山行、宮崎ウエストン祭、子ども登山教室、宮崎支部水源の森づくり作業など）、副支部長2人制および支部会費3000円への増額、山岳遭難救助体制の新設および任期満了に伴う支部役員、委員会委員の選任などを行った。

特別講話では、宮崎県立博物館学芸員、斉藤政美氏が「宮崎の植生」と題して、植物の垂直・水平分布、遷移、高山植物や植物の名前の由来などについて話した。参加者の熱心にメモをとるなど、真摯に学習する態度に感銘を受けた。総会終了後、同会場において、新入会員を囲む懇親会となり、この1年間の定例山行、全国支部集会広島大会、育林作業などの活動状況が解説付きでスライド上映され、「あの日、あの感動」を味わい、宮崎支部オリジナルソング「日向山旅賛歌」を合唱して、山行意欲を燃え上がらせつつ散会した。

（井野元 繁）

山研がオープンしました

今年も上高地は4月27日に開山祭を行い、山研も開所いたしました。記録的な残雪で開所作業は大変でしたが、そのぶん、山々は白く輝き、訪れる人々を楽しませてくれます。山研は建て直されて早10年、過酷な自然のなかで建物が少し傷んできましたので、昨年から補修工事を行っています。今年は屋根の塗り替えと外壁の補修を5月末から予定しておりますが、この残雪のため少しずれ込むかもしれません。

6月1日は恒例の信濃支部主催のウェストン祭に、徳本峠を越えて参加いたします（新入会員優先20名限定参加、要領は本誌前号を参照してください）。新緑の徳本峠をぜひお楽しみください。

7、8月は、茨木猪之吉 山岳絵画特別展、幻の名画をお楽しみいただけます。今年のオータムコンサートは、9月20日に開催、楽しく、明るい、チロル音楽と上質なワインを用意してお待ちします。

閉所は11月の連休の後、上高地の紅葉が終わりを告げる8日です。昨年試験的に行った年末年始の特別開所は本年も行う予定です。冬期のトイレのこと、ゴミのこと、安全性についてなど、これらの問題と真摯に向き合うことにより、自然環境と我々登山者との関係がより深く見えてくるからです。会員の皆様の参加をお待ちしています。

Climbing & Medicine · 21

ギンコ(イチョウの葉エキス)が 急性高山病予防に効果的に働く

浜口 欣一

最近健康補助食品ブームで、小生も登山行動中には活性酸素を除去する目的でオーバードライブ(商品名)を摂り快適な登山(下山後筋肉痛が出ない)を楽しんでいる。今回、日常的に脳血液循環改善のために摂っているギンコ(イチョウの葉エキス)が急性高山病の発症予防に効果が有るという論文を読んだので、その主旨とギンコの内容を紹介したい。

論文では、任意に選んだ被験者26人を、ギンコ服用群とプラセボ(偽薬)服用群に分け二重盲検法で検討した。場所はハワイで被験者はMauna Keaに登る24時間前にギンコ60mgを1日3回またはプラセボを服用した。被験者は平地から頂上(4205m)まで、途中2835mで1時間の休憩を挟み3時間強で輸送された。急性高山病(AMS)の判定は、AMSスコア(注)を使用した。

ギンコ(12人)、プラセボ(14人)の

両群では、ギンコ2人(17%)、プラセボ9人(64%)が重篤なAMSになった。4205mでのAMSスコアは、プラセボ群に対してギンコ群の方が点数は少なかった。ギンコを予防薬として行動1日前に服用すると、AMSの重篤性を軽減するとの最初の報告であった。

なぜギンコが効果があるのか、その理由を調べてみた。

イチョウの葉のおもな有効成分は、フラボノイド類とテルペン類である。イチョウの葉に含まれる13種類のフラボノイドには毛細血管を拡張し血行を促進させる働き、他、心臓の血流を増やしたり脳の老化を防ぐ働きがあるとされている。特にイチョウ葉にしか含まれない二重フラボン(2つのフラボノイドが結合)が6種類も含まれており、これらのフラボノイドは、強力な活性酸素消去作用と血管拡張作用を有している。

またイチョウ葉の成分中6%を占めるテルペン類はギンコライドとピロバライドで、他にはないイチョウ特有の成分で、ギンコライドは抗炎症作用を有している。つまり多種類のフラボノイドとギンコライドと一緒に作用して相乗効果をもたらしているわけである。

このような薬理作用を考慮すると、脳循環の改善から高山病の脳症状(浮腫に伴う諸症状)を軽減しているのかも知れない。

なお、イチョウの葉を使った健康食品で皮膚炎などの被害が出ていることが2002年11月、国民生活センターのまとめでわかった。葉に含まれるアレルギー物質の「ギンコール酸」を取り除いていないことが原因である。サプリメントとして商品化されたギンコは各メーカーから発売されているが、試みたい岳人は各自の責任で商品を選んで欲しい。

注:「登山医学」11:121-123,1991を参照



個人手配旅行から人気のトレックツアーや
エクスペディションのアレンジまで。充実
度が違う「旅」のプランニングをこころがけ
ています。山旅などあらゆるジャンルを取り
扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)



東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千代田区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき一〇〇〇字程度でお願いします)



イラスト・宇都木慎一

詩

ひとすじの光

上野 幸人

山あいから見えたひとすじの光が
瞬く間に世界に降りそそぐ
窓から差し込む光が眩しく思えた

三日三晩、お茶とパン以外はほと
んど喉を通らず歩き続けたのに
つらいとは思わなかった

特に苦しいとも思わなかった

この程度のことは……

なのに、久しぶりにあじわう心地
よいベットの上で朝をむかえたとき

ひとすじの光が目にしみる
とてもつらかった

半年ぶりにヒマラヤの地に戻り、

織内信彦名誉会員と秋田

保坂 隆司

昨年の11月25日、アルカディア市ヶ谷において「織内信彦さんお別れの会」が催され、私も参会した。300名を超える各界の参会者の方々に圧倒されて、織内さんに教えを賜った一番最後にも私は入らないと思うほどであった。

私が織内名誉会員へおそろえるお手紙を差し上げたのは平成11年4月初めのことで、秋田県出身会員の麓長氏についてお聞きするするためであった。秋田支部設立40周年記念誌に山岳会創立以来の秋田県関係会員を拾い上げようと、百年史委員会の松田雄一氏のご指導で、麓氏が東京農大山岳部員だ

ったことから織内名誉会員をご紹介いただいたのであった。早速、麓氏についてのご返事をいただき、引き続いて麓氏と一緒に登られた厳冬期谷川岳の写真や麓氏が奥穂高ジャンダルム飛騨尾根の積雪期初登攀を記録した『農大山岳部報』などを送っていただいた。そして5月の通常総会のとき初めてお会いして、お礼のご挨拶を申し上げたのであった。

「今度は私と秋田県との山のことではない意外なつながりをお話しましょう」と書かれた、25年前アフガニスタンで買われたという絵はがきをいただき、平成13年5月の総会のときそのお話を伺うことができた。

織内さんのお母上・敏枝様のお父上安江仙政様は旧松本藩士で、藩が戊辰の役で土壇場に官軍へ組したことから越後や会津を転戦し、維新後は秋田県庁に職を得、内政部課長や会計主管を務められた。秋田駅の近くで今は児童公園となっているが、当時は国学者平田篤胤先生が生まれた大和田邸を借りて住まわれていたという。

敏枝様の弟の仙弘様は明治21年生まれで、秋田師範付属小学校か

ら12歳で上京し幼年学校に入った。ロシア語を学び、陸軍士官学校を出てシベリアへ出兵、ユダヤ問題を専門に研究された。そして昭和13年、満州の大連特務機関長に発令された安江仙弘陸軍大佐は、ナチスドイツからシベリア鉄道で逃れてきたノービザのユダヤ避難民に対し、人道上の問題としてビザを発給させた。その数は昭和14、15年だけでも約3000人、有名なリトアニア共和国の日本領事代理・杉原千蔵氏の日本通過ビザ発給の2年前のことであった。大佐の構想は、ドイツのナチスから逃れて来るユダヤ人難民を満州に受け入れ、彼らのためのユダヤ国家を満州の一部につくる、というものであった。これは、日本の敗戦によつて水泡に帰すが、のちに長男の弘夫氏が『大連特務機関と幻のユダヤ国家』を著し、公にされている、というお話を承り、秋田との関係浅からぬものを感じたのであった。

5月の総会を前にして、改めて織内名誉会員からいただいた数々のご指導に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りする次第である。

ゆつくりと歩き通した八日目の朝
ここは標高4234m、ペリチェ
村である
空気が濃いせいかがつすりと眠れ
る

様々な思いが私を巡り、日本での
事がつまらなく思えた
ここが楽しいというのではない
日本に帰ることが、なぜか私を悩
ませる
私を責める

ひとすじの光
心地よい朝を私のからだがかえ
てくれるのに
ひどく眩しい
とてもせつない

「地質で語る百名山」

織方 郁映

独立行政法人・産業総合研究所
の最近の広報誌に表題のようなウ
ェブサイトの記事がありました。
興味を持たれる会員も多いと思う
ので紹介させていただきます。

このサイトの情報発信者は同研
究所の地質調査情報部ですから、
国家として最も大事な仕事は国土

の確認である、との認識に立つて
日本で真っ先に設立された国立研
究所のひとつ、元通産省工業技術
院地質調査所の成果の普及活動と
いえましょう。

担当者の狙いは「日本百名山、
あるいは個々の山岳の名前をキー
ワードとしてインターネット上で
検索すれば、対応する地質図・地
質の説明のページがヒットする、
今度登る山はどのような岩石が転
がっていて、いつころできた山な
のか、そんな知識を少しでも目に
することが出来る状況をつくり出
したい」ということらしく、登山
者は「そこに山があるから」と登
るのに対して、「なぜそこに山が
あるか」を解くために登る地質調
査者が「鳥、草花、樹木などと同
様に、山では岩石や地質にも興味
を抱く登山者が多いはずなのに、
それに応える解説情報が少ないの
は自分らの普及活動の遅れにあ
る」と反省して開設したサイトと
いえます。

山の生い立ちと地形、山容、景
観などとの関係が写真や地質図を
使って説明されていて、BGMも
心地よい楽しいサイトです。現在
紹介されている山はまだ16座です

が、登山者からの反響がその収録
活動を加速することを期待しまし
よう。

<http://www.gsj.sp/Info/100mt/>

(注 InfoのIは大文字)

山岳会の「事業」を シフトする

鷲頭 隆

昨年12月の本会報に日本山岳会
のありかたとして今後は「会をあ
げての馬鹿馬鹿しいほどの資金が
かかる集団遠征登山はきっぱり諦

め、自然保全保護に寄与する活動
を正面に押し出すべき」という提
案が載った。内心では誰もが感じ
ていた正論であらう。

明治維新以降敗戦まで日本は富
国強兵を国是とした。国民も企業
も夢は海外に雄飛することであり、
登山家の最終目標は海外遠征であ
った。富国への手段は敗戦を機に
「強兵」から「経済進出」に転じ
たが、国の海外雄飛志向に変わり
はなく、日本山岳会もその流れに
のって、一貫して「海外遠征登山
至上主義」をはばかりなく標榜す
ることができたのである。

「山の本」春の新刊発売!!

全世界紀行—民族と歴史、そして冒険

南里章二 著 (9364) A5判 480頁 本体2,700円
シルクロード、ヒマラヤの踏査。コンゴ、アマゾン川下り。
サハラ砂漠縦横断など、全世界独立国192カ国を旅して。

鈴鹿の山を歩く

草川啓三 著 四六判 330頁 予価2,600円(3月刊)
鈴鹿全山約80のプロフィールとおすすめアドバンスコース
20を紹介。カラーフォトエッセイなど、盛沢山な内容。

●好評発売中

四国の山を歩く

尾野益大 著 四六判 300頁 本体1,900円
四国の山々50余座を、史跡、植物、景観など山の個性に
光をあてて案内する四国初の本格的ガイド紀行。

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入 385ページ B全判地図13葉

宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・雁部貞夫 共著

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

俳句

十文字峠

畑中 耕一

杖一本十文字峠の深雪晴れ

雪霰や石楠花静まる丸木小屋

人気なき十文字小屋の貂の番

冬銀河億万年の旅の果て

吹き曝す小窓に白き両神山

ともしびや白檜の森の彼方より

短歌

大崩山

永嶺 麗子

山行のバックギング終れば目覚時計の針を午前四時にセツトす

おだやかに広ダキの稜線暮れゆけば明日の晴天をわが確信す

北天にカシオペアは瞬く午前四時行動食の甘納豆ポケットに入る

ワイヤーを手繰りトラバースする岸壁にミヤマセキショウの花清々し

熊塚の建てる九州脊梁の山塊にすでにツキノワグマを見ることはなし

ところが90年代に入って事情は様変わりする。物質的に一応の満足度に達した国民は次に精神的豊かさを求め始めたからだ。

物質的欲求は隣人と比較しながらその充足度を高めるための直線レースであったが、精神的豊かさにおける充足度は各人各様であるため、目標は面的な広がりの中で多様化する。いまや、海外登山は本会の「挙国一致」的目標とはな

りがたく、各人各様に拡散した目標のひとつに過ぎない。にもかかわらず、それを会全体の目標であるかのごとく装って会の主体事業とするのは無理があると思う。

本会定款に規定の事業に「自然保護活動の推進」と「登山施設改善の促進」がある。中高年登山者の増加に伴いこれら項目の重要性が増している。

いま、日本山岳会という公益法人に求められている役割は何か。大きな課題がふたつあると思う。ひとつは山岳林道、ダム、広域農道など自然を破壊する公共事業にストッパーをかけるため、会の組織をあげて調査を行い、資料を作成して、必要な行政手段に訴える「事業」である。

高度経済が成熟し、成長が鈍化すると、市場の論理にしたがって、過剰になった企業は退場するか、または新しい需要に応じて交替する。しかし、政官財の癒着構造は国民からの借金(国債)による公共事業で要らない林道などを作っているのである。

これを阻止することは自然保護のみならず、国民の借金を減らすことにもつながるであろう。

他のひとつは中高年の健康増進のための「登山施設改善の促進」であるが、詳細は次回に譲りたい。

これからの新しい「事業」は若年層の回帰を伴うであろう。若い世代が入会しない理由は単純明白で、それは本会が若者にとって魅力がないからである。その魅力とは対象の未来性である。いま急速に拡大している福祉関係の分野に若者たちが積極的に参入している現状をご存じだろうか。

海外登山という伝統テーマの代わりに、そのテーマの隠れ蓑の役をはたしてきた右の二大事業を押し進めることで、本会に魅力が生まれ、その魅力は権威やステイタスに価値をおかない新しい中高年層をも引きつけるに違いない。

図書受入報告 (2003年3月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
池田光二	山名考	157pp/20cm	文芸社	2003	出版社寄贈
布村昇 他(共編)	自然保護40年史	86pp/26cm	富山県自然保護協会	2002	発行者寄贈
前川清治	津久井歴史ウォーク	238pp/19cm	東京新聞出版局	2003	出版社寄贈
田代正廣	厳冬の八甲田を求めて:田代正廣写真集	/19x27cm	田代正廣(私家版)	2003	著者寄贈
土橋進一(編)	尾瀬と平ヶ岳	10pp/30cm	土橋進一(私家版)	2003	編者寄贈
自然公園財団(編)	レンジャーの先駆者たち	429pp/21cm	自然公園財団	2003	発行者寄贈
滝澤昭正	福岡県無名山301山:見つけようふるさとの山河	327pp/21cm	西日本新聞社	2003	三枝明德氏寄贈
Kekoo Naoroji	Himalayan Vignettes: The Garhwal and Sikkim Treks	236pp/27cm	Himalayan Club	2003	Mr.R.Naoroji寄贈
Stan Armington	Trekking in the Nepal Himalaya (8th ed.)	480pp/19cm	Lonely Planet	2001	購入
J.Mock, K.O'Neil	Trekking in the Karakoram & Hindukush (2nd ed.)	384pp/19cm	Lonely Planet	2002	購入
Walter Bonatti	The Mountains of My Life	442pp/21cm	Modern Library	2001	購入
Mark Twight	Kiss or Kill:Confessions of a Serial Climber	208pp/23cm	Mountaineers Books	2001	購入

図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

日本勤労者山岳連盟海外委員会・編

『海外トレッキング入門 (実路ガイド25コース)』

初めてトレッキングに出かけようかなと考えている人や、次はどこにしようかと思案中の人にはうってつけのガイドだ。「初めてのトレッキング」と「実路ガイド25コース」の2章から構成されている。1章ではどの程度の体力や技術力でトレッキングが楽しめるかなど、初心者が必要になる点について懇切丁寧に説明している。2章では6大陸にトレッキングへ出かけた会員23人が執筆し、ここ1、2年の新しい情報が記されている。コースごとにアクセス方法と詳

細なトレッキングルートと地図上に付している。また「諸情報」欄に筆者のトレッキングした期間、費用、参加者年齢、アレンジした旅行社とともに気候、装備の留意点、食事、水、トイレなどの実態、さらにポーターは何人いたか、荷物はどれくらい担いでくれるのか、自分はどれほど担がなければならぬのか、役に立った資料は何かなどが記載され誠にありがたい。失敗談やトラブルなどにもふれており、どこに行こうかと迷っている人はもちろん、自宅にいなからバーチャル・トレッキングが楽しめるお奨めの手引書である。

(南井 英弘)

大月書店刊 2002年11月20日
253頁 2200円

『北アルプス黎明』

穂刈三寿雄・著

奥付にならって著者としたが、副題に「ガラス乾板写真集」とある通り、本書は北アルプスの景観をとらえた写真の集成である。1920年代に開始されて1930年代後半に頂点に達した穂刈三寿雄の山岳写真がおよそ1000点。

槍ヶ岳山荘の初代の主であり、槍ヶ岳開祖の播隆上人の研究でも知られる人であるので、槍ヶ岳とその周辺が大部分かと思いきや、剣岳、立山、後立山、さらに蔵王までもが被写体となっていて、山岳写真家としての執念を感じさせる。それにしても、モノクロームの写真の雄弁さに驚かされる。カラーを見慣れた目に、白から黒への光と影の微妙な変化が何と新鮮に見えることか。最良の天候を辛抱強く待つ撮影する人の快感までが画面から伝わってくる。記録ではなく、芸術としての山岳写真を追求した「東京山岳写真会」の同人であつた人らしい写真が並ぶ。

しかし、貴重な記録写真の性質を帯びてもある。今ではたいそう広くなつてしまった登山道の単純な細さ。夏でもピッケルを抱えて登っていた古き良き時代の登山者のいでたちも面白い。

このような写真が、大判の良質の紙に刷られて細部の濃淡と陰影の妙をたのしませてくれるものとなつてよみがえつた。何度見ても見あきない。

(宮下 啓三)

2002年10月 信濃毎日新聞
社 106頁 2200円

『登山誌 南アルプスを含む 静岡市の山』

金子昌彦・廣澤和嘉・著

本書は2002年4月に発行された『静岡市の山々』(会報『山』674号参照)の姉妹編として刊行されたものである。「まえがき」にあるとおり、前書が静岡市周辺の山々のガイドを中心とした横の広がり、本書は主に縦の流れのに対し、本書は主に縦の流れ(地方誌的観点)に重点をおいて執筆されている。いかにも労作、必読の地方研究の資料集である。

手つかずの大自然。極東の秘境で山と温泉と川下りを楽しむ

カムチャッカ半島 アバチャ山登頂6日間

〈新潟発着〉7/19●7/26●8/2●8/9●8/16発
254,000円~278,000円

〈関空発着〉アバチャ山登頂とフラワーハイキング8日間
7/29●8/5●8/12発 338,000円~358,000円

ALPINE ツア サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-ts.co.jp http://www.alpine-tour.com

本書はかなりの大冊であるので、まず簡単に目次に従ってその内容を紹介してみよう。

第一章・エピソード(本山茶とわさびなど10編)、第二章・山のかかり(霊山く名山など7編)、第三章・山に登る(講中登山など4編)、第四章・近代スポーツ登山(日本山岳会誕生など7編)、そして最も力を入れているのが第五章・各地域の登山誌であり、静岡市周辺を10地区に区分、その登山誌を調査、詳述している。

あとは、補章として「山から帰って」と題して榎島の豆腐屋など10編のエッセイを掲載している。ほか資料一覧までは本誌であり、ほかに別冊附録として美しいカラー写真入りの「山小屋の設置とその変遷、山の情景」が添えられ、筆者は伝承と自然保護の面で後輩に役立てたいと結んでいる。

(小倉 厚)

2002年12月 私家版(申込
み先 〒422-8006 静
岡市曲金5-7-6 廣澤和嘉
電話054-281-475
4)357円 頒布価格300
0円+送料380円

会務報告

3月理事会

日時 3月12日(水)18時30分〜21時
場所 日本山岳会会議室

「出席者」 大塚会長、村井副会長、西村、坂井、今村、高原、鳥居、藤本、高遠、鈴木、河西、大野、宮下、小川、中村、黒川、松原各理事、古市、内田各監事、平林、宮崎、宇田川、鰐坂各常任評議員「委任」 長尾、芳賀各副会長、朴元理事

【審議事項】

1 平成15年度事業計画(案)および収支予算(案)について

西村、村井副会長別添資料により提案があり、詳細に検討された結果、一部追加、訂正があり承認された。併せて、本案件議事録の文部省提出にあたり、その署名人を西村政晃、高原三平の両理事とした。(承認)
2 次期理事、評議員の推薦について
標記につき、別紙により候補者案が出され検討した結果承認された。よって本案を評議員会に諮ることとする。なお、候補者案は各

委員会の推薦者をもとに、3月7日、常任評議員(4名)に意見を求めたうえで、常務理事会(会長、副会長を含む)で作成した。

(承認)

3 「経理規定」「映画フィルム・ビデオなど貸出に関する規定」の改正について 村井副会長、鈴木

①「経理規定」

(主旨)「日本山岳会経理に関する内規」(昭和47年5月12日実施)、「重要な証書等の保管に関する内規」(昭和58年10月11日施行)を見直した。

(主な内容) 全面的に現状に合うようにした。

(実施) 平成15年3月12日

②「映画フィルム・ビデオなど貸出に関する規定」

(主旨)「映画フィルム貸出規定」(昭和52年2月4日施行)「フィルム等の貸出・返却の事務処理」「エベレスト登山16mmフィルム貸出規定」(昭和46年2月3日実施)「映画マナスルに立つ使用規定」(昭和50年3月5日実施)を見直した。

(主な内容) 全面的に現状に合うようにした。

(実施) 平成15年3月12日

【報告事項】

1 ミニ水力発電データの一部公表依頼について 西村、小川

電源開発(株)より「マイクロ水力発電導入ハンドブック」にミニ水力発電データの一部分公表の依頼があり承認した。

2 名義後援の依頼について

西村、大野

第23回日本登山シンポジウム(会長 大野秀樹)より、今年5月31日、6月1日開催の同シンポジウムの開催にあたり、名義後援を依頼されたので承認した。

3 ヒマヤンクラブ75周年記念行事参加報告について

中村、坂井

インド・ムンバイで2月14、16日開催された。中村が「東チベットのアルプス」、坂井が「東カラコルム・パドマナブ峰登頂」の講演をした。今回、中村理事が同クラブの名誉会員に推挙された。なお、ヒマヤンクラブは会員数が約1000人で、内外国人が350人。
4 同好会登録報告 高原
「同好会規定」により以下の21グループより登録申請があり、当会同好会として承認した
二火会、丹水会、緑爽会、SUN

燦会、アルパインスキークラブ、アルパインフォトビデオクラブ、山の自然学研究会、赤シャツ土曜会、山岳地理クラブ、アルパインスケッチクラブ、三水会、山げらの会、九五会、山遊会、つくも会、92同期会、94同期会、98同期会、00同期会、01同期会、02同期会(同期会においては、平成16年3月末までに登録名称の変更が必要)

5 2004年第21回全国支部懇談会の日程について 西村

標記は熊本支部主管で平成16年10月2、3日開催予定(なお、今年には青森支部で9月13、14日に十和田湖で実施予定)。

6 各委員会報告

総務委員会

西村、高原

支部事務局担当者会議を2月15日(土)13時30分よりグリーンホテル16日(日)10時より当会会議室において開催した。全国25支部より29名、大塚会長をはじめ本部役員、総務委員の合計43名が出席。初日は「長期改善計画」の概要について西村理事が説明。続いて「支部活動を語る」というテーマで討論した。切り口は「支部入会資格、支部の会友制度」「支部で取り組む

森づくり、親子登山」「支部独自の100周年記念行事について」だった。熱心な意見が多く出された。

財務委員会・図書管理小委員会

村井副会長

●2月末までの会計報告があった(資料あり)。決算にあたり仮受金、仮払金の精算依頼があった。また、日中チョー・オユー登山の日本テレビからの100万円の入金は登山隊の費用の一部とした。その他、傷害保険および一部装備の売却費が未収状況である旨報告された。

●会費未納者に対し納入依頼があった(未納者リスト添付)。

●2001・2002年度の図書納本数の報告が別添資料によりあった。

会報編集委員会

今村

3月号は西村常務理事の「日本山岳会の現状と長期改善計画(骨子)」についてがトップ記事。

指導・遭難対策委員会

黒川

学生部指導委員会と共催で、平成14年度大学山岳部会議を3月28日18時30分より法政大学にて開催予定。テーマは「元気印の大学山岳部全員集合」。

医療委員会

当会後援の第23回日本登山医学

シンポジウムを、5月31日、6月1日の2日間開催するとの案内があった(別添資料あり)。

海外委員会

中村

2月21日、ダグ・スコット氏が当会を表敬訪問され、大塚会長と会談した。図書室の地図に興味をもたれた。

自然保護委員会

河西

山岳6団体と日本トイレ協会が設けた山岳団体自然環境連絡会(今年度は当会が代表幹事)は、4月11・13日に国立青少年総合センターなどで、アジア山岳自然環境会議を開催する。協力、参加の依頼があった(別添資料あり)。

資料の受け入れ

次の資料を寄贈いただき、資料委員会として受け入れました。

品名 御茶の水時代のバックル
寄贈者 中尾 正武 (会員番号 2525)
受入日 平成15年4月21日

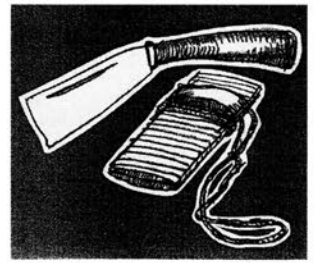
資料委員会 鈴木 敬吾

ルーム日誌

3月	総務委員会
3日	スケッチクラブ
4日	山岳地理クラブ 02同期会
5日	フォトビデオクラブ
6日	常務理事会
7日	インターネット小委員会
10日	常務理事会 二火会 スケッチクラブ
11日	理事会 つくも会 休山会
12日	高尾の森づくり 山の自然学研究会
13日	フィルムビデオ委員会
14日	SUN燦会
15日	百年史委員会 資料委員会
17日	常務理事会 インターネット小委員会
18日	山研運営委員会 三水会
19日	科学委員会 集会委員会
20日	自然保護委員会
25日	図書委員会 自然保護委員会
26日	山遊会
27日	常任評議員会 学生部 アルパインスキークラブ
29日	青年部 評議員会

3月来室者555名

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆第20回全国支部懇談会

青森支部

「住まば日本の本 遊ばば十和田
歩きや奥入瀬三里半」明治の文豪
大町桂月が愛した奥入瀬溪流、蕨
温泉の散策、十和田山の登山はい
かがでしょうか。

期日 9月13(土)、14日(日)

日程 13日 十和田湖町焼山温泉

郷奥入瀬溪流グランドホテ

ル 受付13時、懇談会15時

親睦会18時

14日 ①十和田山(105

4)登山 ②ハイキング・

蕨温泉めぐり(別に赤沼散

策) ③奥入瀬溪流・十和田

湖観光

費用 18000円

申込み 7月31日までにハガキに

住所、氏名、年齢、会員番

号、支部名、参加コースを

明記のうえ中村勉宛(〒0
31-0804 八戸市青
葉2-12-20 TEL 0178
-22-5613 FAX 01
785-22-5697)
*申込者には案内を送付します。
◆アーカイブス・山岳映画
「モンブランの嵐」上映

フィルムビデオ委員会

近年関心の高まるフィルム・ア
ーカイブス。1930(昭和5)年
制作、山岳映画の巨匠アーノル
ド・ファンク監督・脚本、レニ・リー
フエンシュタール出演、航空技術
を駆使してモンブランに生きる人
たちのスピリットを伝える名作。
(ビデオ版93分、字幕スローパー)

日時 6月13日(金)19時より

会場 日本山岳会集會室

解説 羽田栄治フィルムビデオ委

員長

申込み 当日先着順35名(無料)

◆高山植物はなぜ大切なのか

—世界的な視野から見た日本の高山—

自然保護委員会

山は本来どのようなものであつ
たか、そして山をどのように護ら
なければならぬのかを、この講
演が明らかにしてくれるはずで
日時 6月17日(火)18時30分より

場所 日本山岳会集會室

講師 東京学芸大学教授・自然保

護委員会専門委員 小泉武

栄氏

費用 300円

申込み 氏名、住所、電話、会員

番号を明記のうえ、郵送か

メールで下記まで(千代田

区4番町5-4 日本山岳

会自然保護委員会 講演会

担当係宛 ofunetk@f8.

dion.ne.jp)

担当 大船武彦(Tel 042-52

4-9455)

*会員以外の方も誘い合せのう

えお出かけください。

◆夏山親子登山の案内

事業委員会

期日 8月15・19日(予定)

場所 立山・剣(現地集合、解散)

費用 概算3万円

参加資格 小学生以上(親子同伴)

*詳細は次月で発表します。

◆トレッキングのお知らせ

事業委員会

米国で一番高いホイットニー山

に登ります。

期日 9月6・17日(予定)

場所 ヨセミテ・ホイットニー山

(44177)

費用 概算50万円(ホテル泊)

募集人員 30名

*登山中は参加3名に現地ガイド

1名がつく予定。

*詳細は次月発表します。

◆第9回伊吹山播隆祭 東海支部

播隆上人の生家(富山県大山

町)を尋ねます。

期日 6月28(土)、29日(日)

行程 28日 JR稲沢駅8時—東

海北陸道—雄山神社本宮—

雄山神社博物館—立山山麓

温泉・森の雫(泊)

29日 宿(7時)—播隆上

人人生家跡見学—高頭山(1

203)往復5時間—

JR稲沢駅(19時)

費用 17000円(大垣共立銀

行・神戸支店・普通・45

5760・稲葉省吾へお振

り込みください)

定員 25名

事務局 岐阜市安八郡神戸町落合

124-11 TEL 0584-

27-7247 稲垣省吾

*29日昼食は各自用意のこと。

◆シロヤシオを訪ねて 山遊会

新緑の日光の山を歩きましょう。

日時 6月1日(日)7時10分浅草苑

日光・会津田島行(快速)

集合 9時15分東武日光駅

(東武日光ミニフリーパス
がおすすめです)

コース 竜頭の滝上—高山山頂—

小田代原—赤沼

申込み ハガキかFAXで菅原紀

彦宛 (〒183・0032

府中市本宿町1・32・1・

7・303 FAX 042・3

66・0041)

*申込者には計画書を送ります。

◆天狗岳山行 02同期会

山登りの後、ごいっしょに温泉
で汗を流しましょう。

期日 6月21日(土)、22日(日)

集合 JR茅野駅に9時10分(東

京方面の人は新宿からあず

さ1号で行きます。)

行程 21日 茅野—渋ノ湯—黒百

合ヒュッテ—天狗岳

22日 高見石—白樺林道—

稲子湯—小海

費用 約1万円(交通費除く)

装備 夏山一式 雨具必携 昼食

申込み・問合せ 6月14日までに

澤田信人宛 (TEL・FAX 03・

5793・4696

メール fasawada@white.

plala.or.jp

◆日本山岳協会展

会期 6月30(月)〜7月6日(日)

時間 11〜18時30分(6日は17時
まで)

会場 朝日アートギャラリー (TEL

03・3567・1671

中央区銀座4・101・西

銀座デパート1F)

*入場無料

◆江村慎一 山の油絵展

『山の描き方 絵姿の百名山』朝日

選書出版記念

会期 6月11(水)〜17日(火)

時間 10〜20時(最終日16時まで)

会場 松屋銀座 7階画廊 (TEL 0

3・3567・1211)

■会員異動

物故

滝口 操 (5479) 03・2・5

脇坂順一 (5332) 03・3・5

佐藤徳松 (9828) 03・3・22

退会

石原 重徳 (4653) 静岡

友野 正雄 (4755)

荻野弘三郎 (5401)

鳥山 正代 (5803) 静岡

南 平吉 (6249)

小泉 直隆 (7213) 信濃

遠藤 二郎 (7883)

和田 政司 (8627) 東海

今野 善郎 (8727) 福島

河上 鏡治 (8965) 福島

加藤 智造 (9697) 宮崎

俵谷 高城 (9756)

伊藤 宏範 (9885) 京都

新道 弘之 (10017) 京都

高田 榮久 (10191) 関西

八木 藤吉 (10315) 静岡

南 璋明 (10535) 京都

久保田直之 (10585)

吉田 賢男 (10745)

楠田 育成 (10849)

堀江 良明 (10968) 京都

堀込 静香 (11519)

佐藤ひろみ (11541) 秋田

西尾 信義 (11607)

千葉 昇 (11614)

石垣 典郎 (11832)

杉浦 孝蔵 (12821)

長谷川 正 (12836) 東海

中村 裕子 (13114) 宮崎

宗像 充 (13508)

吉永芝都子 (13569) 東海

■訂正 4月(695)号11ペー

ジ4段、19行「ペコマ」は「ペマ

コ」の間違いでした。同19ページ

1段7行、山の自然学研究会解説

員は、白木幹司の間違いでした。

お詫びして訂正いたします。

◆編集後記◆

●今年のヒマラヤは5月に入ってから悪天候が続いたために各隊とも苦勞しているようです。初めての試みのカングリ・シャルシニア登山隊も6300付近で登頂を断念したようで大変残念でしたが、今回の経験を生かして何とか次回に繋げたいものです。

●今月17日の定期総会で新体制が発足し、2005年の創立100周年への取り組みが本格化します。各支部毎の行事も予定されていることと思いますが、募金などもよろしく願います。

●東西南北欄はできるだけ多くの投稿を掲載したく思いますので、原稿の分量は1000字見当でお願いいたします。またパソコンで打った原稿はメールでの投稿をお願いします。(今村 千秋)

日本山岳会報 山 696号

2003年(平成15年)5月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 大塚博美

編集人 今村千秋

E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社